

全数報告の感染症

- 1 類感染症: 報告なし
- 2 類感染症: コレラ 1 例 (疑似症)、細菌性赤痢 8 例 (感染地域: 宮城県 2 例、中国 1 例、インド 1 例、フィリピン 1 例、ベトナム 1 例、シンガポール 1 例、エジプト 1 例)
- 3 類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 66 例 (うち有症者 29 例、HUS 3 例) [感染地域: すべて国内 国内の多い感染地: 鹿児島県 18 例*、兵庫県 7 例、愛知県 6 例 *うち 11 例は、第 43 週につづく幼稚園に関連した集団発生 年齢群: 10 歳未満 (33 例)、10 代 (6 例)、20 代 (3 例)、30 代 (10 例)、40 代 (5 例)、50 代 (3 例)、60 代 (3 例)、70 歳以上 (3 例) 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2 (29 例)、O26 VT1 (19 例)、O157 VT2 (9 例)、O111 VT1・VT2 (1 例)、O157 VT1 (1 例)、O165 VT1・VT2 (1 例)、その他/不明 (6 例)]
- 4 類感染症: A 型肝炎 4 例 (感染地域: 愛知県 1 例、国内 (都道府県不明) 1 例、韓国 1 例、タイ/インド 1 例)、つが虫病 7 例 (感染地域: 福島県 3 例、青森県 1 例、神奈川県 1 例、岐阜県 1 例、宮崎県 1 例)、デング熱 2 例 (感染地域: インド 1 例、ドミニカ 1 例)、日本紅斑熱 4 例 (感染地域: 鹿児島県 2 例、和歌山県 1 例、徳島県 1 例)、ライム病 1 例 (感染地域: ドイツ)、レジオネラ症 1 例 (肺炎型、60 代、感染地域: 静岡県)
- 5 類感染症: アメーバ赤痢 5 例 (すべて腸管アメーバ症) [感染地域: 国内 3 例、中国 1 例、インドネシア 1 例 感染経路: 経口 2 例、性的接触 (同性間) 1 例、不明 2 例]、ウイルス性肝炎 2 例 (ともに B 型 感染経路: 性的接触 (異性間) 1 例、不明 1 例)、急性脳炎 3 例 (すべて病原体不明、10 代 1 例、40 代 1 例、80 代 1 例)、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例 (ともに孤発性プリオン病古典型)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例 (血清群: A 群、60 代)、後天性免疫不全症候群 9 例 (無症候 8 例、AIDS 1 例) [感染地域: 国内 8 例、ブラジル 1 例 感染経路: 性的接触 7 例 (異性間 2 例、同性間 3 例、異性間/同性間 1 例、異性間・同性間不明 1 例)、不明 2 例]、梅毒 5 例 (早期顕症 I 期 1 例、早期顕症 II 期 3 例、晩期顕症 1 例)

定点把握の対象となる 5 類感染症 (週報対象のもの)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は微増した。都道府県別では沖縄県 (0.14)、広島県 (0.04)、千葉県 (0.03)、岐阜県 (0.03)、岡山県 (0.03) が多い。

小児科定点報告疾患: RS ウイルス感染症は 217 例の報告があり、報告数は増加した。年齢別では、1 歳以下の報告数が全体の 73% を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は 3 週連続して増加し、過去 5 年間の同時期 (前週、当該週、後週) と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では秋田県 (1.00)、三重県 (1.00)、鳥取県 (0.84) が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は 3 週連続して増加し、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では北海道 (3.1)、鳥取県 (2.7)、新潟県 (2.7) が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第 39 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では熊本県 (15.7)、鳥根県 (14.2)、宮崎県 (13.0) が多い。水痘の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では福井県 (2.1)、秋田県 (1.8)、北海道 (1.5) が多い。手足口病の定点当たり報告数は 3 週連続して減少した。都道府県別では山形県 (2.6)、長野県 (2.1)、富山県 (1.7) が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第 40 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では埼玉県 (0.66)、栃木県 (0.65)、富山県 (0.62) が多い。百日咳の定点当たり報告数は増加し、過去 5 年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では栃木県 (0.11)、沖縄県 (0.09)、千葉県 (0.07) が多い。風しんの定点当たり報告数は微増した。都道府県別では滋賀県 1 例 (0.03)、千葉県 2 例 (0.02)、熊本県 1 例 (0.02)、東京都 2 例 (0.01)、大阪府 2 例 (0.01) の報告であった。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では宮城県 (0.62)、愛媛県 (0.19)、福島県 (0.17) が多い。麻しんの定点当たり報告数は減少した。都道府県別では和歌山県 1 例 (0.03)、福岡県 1 例 (0.01) の報告であった。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は 2 週連続で減少した。都道府県別では新潟県 (3.1)、宮崎県 (2.0)、青森県 (2.0) が多い。

基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では沖縄県 (2.7)、大阪府 (2.5)、岡山県 (2.0) が多い。

1)	小児科定点												眼科定点		基幹定点								
	インフルエンザ	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	成人麻しん	
(定点当たり)																							
愛媛県	.1	.1	.1	1.4	5.6	.9	.7	.3	.7	.0	.2	.5	.5	3.1			1.3						
近畿		.3		.8	6.0	.7	.0	.2	.5				.3	.3									
香川県			.2	.7	5.3	.7		.1	.9				1.2										
徳島県			.3	1.4	2.9	.8	.2	.1	.8			.0	.6	.7	.3		.3	.1					
高知県																							
全国	.0	.1	.3	1.5	7.1	.8	.7	.3	.6	.0	.0	.1	.0	.9	.0	.7	.0	.0	.6	.0			
北海道	.2	.7	3.1	2.7	1.5	1.1	.3	.5	.5	.0	.1	.1	1.3	.7	.7				.0				
東北	.0	.1	.4	1.5	4.3	1.2	.9	.3	.5	.0	.2	.2	1.2	.9	.9				.8	.1			
関東	.0	.1	.2	1.6	5.9	.8	.8	.4	.6	.0	.0	.1	.6	.8	.8	.0	.1	.8	.0				
甲信越北陸	.0	.0	.4	1.8	4.4	1.0	1.3	.3	.5	.0	.0	.0	1.5	.8	.8	.0	.1	.7	.0				
東海	.0	.0	.3	1.3	8.3	.8	.4	.4	.6	.0	.0	.0	.8	.5	.5	.0	.5	.0	.5				
近畿	.0	.1	.2	.9	8.4	.7	.6	.3	.5	.0	.0	.1	.9	.4	.4	.1	.7	.0					
中国四国	.0	.1	.3	1.3	8.5	.8	.2	.1	.6	.0	.1	.7	.9	.9	.9	.1	.0	.5	.0				
九州沖縄	.0	.1	.3	1.4	10.4	.7	.7	.2	.8	.0	.1	.0	.9	1.1	.0	.4	.0	.4					

1) 高病原性鳥インフルエンザを除く。 2) 成人麻しんを除く。 3) 真菌性を含む。 4) オウム病は除く。 (11月8日集計) 愛媛県基幹感染症情報センター

全国 全数把握感染症 第44週 (2006.10.30 ~ 11.5)

類 型	二類感染症				三類	四類感染症															五類感染症																						
	疾病名	(2)コレラ	(3)細菌性赤痢	(5)腸チフス		(6)パラチフス	(1)腸管出血性大腸菌感染症	(1)E型肝炎 (ウエストナイル脳炎を含む)	(2)ウエストナイル熱	(3)A型肝炎	(4)エキノコックス症	(6)オウム病	(8)Q熱	(11)コクシジオイデス症	(15)つつが虫病	(16)デング熱	(18)日本紅斑熱	(19)日本脳炎	(22)ブルセラ症	(23)発しんチフス	(24)ボツリヌス症	(25)マラリア	(26)野兎病	(27)ライム病	(29)レジオネラ症	(30)レプトスピラ症	(1)アメーバ赤痢	(2)ウイルス性肝炎 (E型及びA型肝炎を除く)	(3)急性脳炎	(4)クリプトスポリジウム症	(5)クロイツフェルト・ヤコブ病	(6)劇症型溶血性レンサ球菌感染症	(7)後天性免疫不全症候群	(8)ジアルジア症	(9)髄膜炎菌性髄膜炎	(10)先天性風しん症候群	(11)梅毒	(12)破傷風	(13)黄色ブドウ球菌感染症	(14)バンコマイシン耐性腸球菌感染症			
第44週報告数	全 国	1	8			66			4					7	2	4											5	2	3		2	1	9					5					
	四 国	愛 媛 県																																									
		香 川 県																1																									
		徳 島 県					1																																				
	ブ ロ ッ ク 別	北 海 道																												1													
		東 北 道	1	2			6								4																												
		関 東 圏		5			6								1	2								1				3		1		1			2				1				
		甲信越北陸					2																																				
		東 海 道		1			8			3					1																									2			
		近 畿 圏					10											1										1	1														
中国四国						6			1								1										1	1	1														
九州沖縄					28								1		2																								2				
週 推 移	全 国	44週	1	8		66			4				7	2	4											1	1	5	2	3		2	1	9				5					
		43週		8	4	64			1					1	2	2					2						8	6		1							10	2					
		42週	1	3		73			4					1	2	1	2										1	8	5	3	2		2	1	11	2			6	1		1	
		41週		6		59			1		1				1		2				2						6	6	1	1	2		15	2				5	4		2		
2006年累積数	全 国	46	420	64	22	3528	57		299	18	19	1	1	191	49	38	7	5		2	55		11	431	20	625	236	138	15	147	95	1086	76	12		522	101		59				
	四 国	愛 媛 県		6	2		16			4				1		7										2	4	4	1	1	3		6				3	1					
		香 川 県					15			1		3	1													3											12						
		徳 島 県					46			1							1										4											3	1				
	ブ ロ ッ ク 別	高 知 県		2	1		3			3							3	1									2	3	1								26	1					
		北 海 道		2	2		73	17		13	17				1										2	14		19	4	8	3	7	6	25	1			8	5		2		
		東 北 道	2	16			360	2		10		3		109					1		1	4				27	22	19	5		6	4	30			2	34	2		4			
		関 東 圏	22	163	37	14	801	15		54		6		1	9	29						28			4	128	4	288	55	46	7	41	34	543	39	5	165	29		24			
		甲信越北陸	7	35	3	2	294	6		23		1			42	3						5			2	61		14	16	11	1	19	5	45	2	1	19	7		4			
		東 海 道	5	38	8	3	425	3		37	1	2			5	6	1					4			2	70		73	27	15		15	14	134	3	1	59	8		9			
近 畿 圏		2	114	8	3	560	5		97		4			2	4	7					1	7			68	2	150	67	17	3	21	22	219	20	1	67	8		8				
中国四国	4	16	3		361	3		38		3	1		12	1	14	2				3				34		29	25	18	1	19	7	38	4		63	14		3					
九州沖縄	4	36	3		654	6		27					12	5	16	5				3				29	14	30	23	18		19	3	52	7	2	107	28		5					

医療機関での診断日をもとに集計。集計日以降の報告数は、次週以降の累積に反映されます。

(2006.11.8集計)